

令和2年度行政事業レビューシート ( 警察庁 )									
事業名	視覚障害者の新しい生活様式を支援するオープンデータ・インベージョン事業			担当部局庁	交通局			作成責任者	
事業開始年度	令和3年度	事業終了(予定)年度	令和3年度	担当課室	交通規制課			交通規制課長 井澤 和生	
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な条項も記載)	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律第52条第1項 同条第2項 障害者基本法第6条			関係する計画、通知等	社会資本整備重点計画(第4次) 交通安全基本計画(第10次) 移動等円滑化の促進に関する基本方針 障害者基本計画(第4次)				
主要政策・施策	交通安全対策			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	視覚障害者の安全と移動等の円滑化を図るため、視覚障害者用付加装置(音響式信号)等の整備を行っているが、視覚障害者用付加装置を深夜に鳴動させることは、付近住民からの反対があり進んでいない。また、新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」では、時差通勤や「1人またはすいた時間」での買い物等が推奨され、視覚障害者用付加装置が鳴動しない時間帯に視覚障害者が1人で外出する機会が増加するものと考えられる。この問題を解決するシステムとして、高度化PICS(携帯電話等の音声や振動により信号の現示を知らせることができるシステム)が期待されていることから、当該システムの整備を推進し、「新しい生活様式」において、視覚障害者の屋外での移動に困難を生じさせることのないようにする。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	高度化PICSは、携帯電話等に導入したアプリを通して情報提供を行うシステムであるところ、整備を集中的に行うことで視覚障害者の移動支援を促進する。また、高度化PICSの整備を推進することで、民間の力を活用した利便性の高いアプリ開発を促進する。								
実施方法	その他								
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度要求	2,560	
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し							
		翌年度へ繰越し					-		
		予備費等					-		
	計	0	0	0	0	0	2,560		
	執行額								
	執行率(%)	-	-	-	-	-			
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	-	-	-	-	-				
令和2・3年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	2年度当初予算	3年度要求	主な増減理由					
	警察装備費	0	2,560	「新型コロナウイルス対策関連要望額」2,560百万円					
	計	0	2,560						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 -年度	目標最終年度 3年度
	主要な生活関連経路における信号機等のバリアフリー化率	重点整備地区内の主要な生活関連経路を構成する道路におけるバリアフリー化の割合(%)	成果実績	%	-	-	-	-	-
			目標値	%	-	-	-	-	100
			達成度	%	-	-	-	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	移動等円滑化の促進に関する基本方針 社会資本整備重点計画								
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度 活動見込	3年度 活動見込	
	高度化PICS整備の事業量	活動実績	基	-	-	-	-	-	
		当初見込み	基	-	-	-	-	1,991	
単位当たり コスト	算出根拠		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度活動見込		
	高度化PICS整備の事業費/事業量	単位当たりコスト	百万円/基	-	-	-	-		
		計算式	事業費/事業量	-	-	-	-		

政策評価	政策	4 安全かつ快適な交通の確保							
	施策	3 道路交通環境の整備							
	測定指標	定量的指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 - 年度	目標年度 2 年度
		重点整備地区内の主要な生活関連経路を構成する道路におけるバリアフリー化の割合(目標年度については第4次社会資本整備重点計画(平成27年度~令和2(平成32)年度によるもの)	実績値	%	99.1	98.7	99	-	-
			目標値	%	99	99.4	99.7	-	100
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
本事業は高度化PICSを整備することにより道路交通環境の整備を図るものである。									
新経済・財政再生計画との関係 2019	取組事項	分野:	-	-					
	(第一階層) KPI			単位	計画開始時 - 年度	元年度	2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
		成果実績	-	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	-	-	
	(第二階層) KPI			単位	計画開始時 - 年度	元年度	2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
		成果実績	-	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	-	-	
	本事業の成果と取組事項・KPIとの関係								
-									

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	本事業は、視覚障害者団体等の要望及び地域住民の生活環境への影響を踏まえ、現状の問題点を解決するため整備を行うものであり、国民や社会のニーズを的確に反映させている。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	民間の力を活用した移動支援・交通安全のためのアプリ開発等は、国が行うべき制度の企画及び立案に関するものであり、国において高度化PICSを集中的に整備する必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	「新しい生活様式」において、視覚障害者の屋外での移動に困難を生じさせることがないようにするため、安全かつ円滑な移動環境の整備が急務であり、優先度は高い。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		
	競争性のない随意契約となったものはないか。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	本事業により、新たなアプリ開発等、様々なイノベーションが期待されており、受益者は視覚障害者を始めとした国民全体であるため妥当である。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	高度化PICSの整備に必要な機器、工事費等の経費に限定されている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-		

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		-				
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		-				
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		-				
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-				
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)			-			
	所管府省名	事業番号	事業名				
点検・改善結果	点検結果						
	改善の方向性						
<b>外部有識者の所見</b>							
点検対象外							
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>							
現状通り	要求に当たって検討すべき事項について、適切に検討がなされている。						
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>							
現状通り	特になし						
<b>備考</b>							
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>							
平成22年度	—	平成23年度	—	平成24年度	—	平成25年度	—
平成26年度	—	平成27年度	—	平成28年度	—	平成29年度	—
平成30年度	—						
平成31年度	警察庁 ( )						

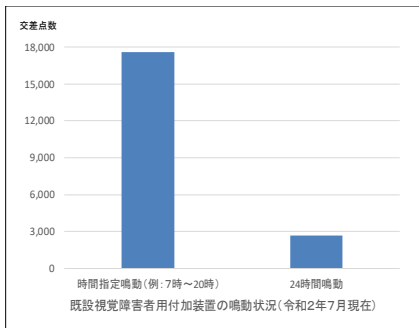


# ロジックモデル【高度化PICSの整備推進】

## 現状把握・課題

### 【現状】

- 警察では、視覚障害者等が道路を安全に横断できるよう、視覚障害者用付加装置の整備等の対策を実施。
- 他方、視覚障害者用付加装置が鳴動しない時間帯の交差点において、視覚障害者の交通事故が依然として発生。  
⇒ 視覚障害者団体から、同装置の24時間鳴動を要望する声もあるが、付近住民との調整が困難であることも。
- コロナ禍での「新しい生活様式」が求められる中、こうした状況が視覚障害者等の時差出勤等に支障を及ぼす懸念。
- さらに、旧型のPICS(専用端末や白杖を用いて音声や振動で信号情報等を知らせるシステム)は、一部製造中止、老朽化等の理由により撤去されるなど、減少傾向。



視覚障害者用付加装置の鳴動状況

年度	旧型PICS整備基数
平成26年度	583
平成27年度	572
平成28年度	536
平成29年度	534
平成30年度	506
令和元年度	436

旧型PICS整備基数の推移

各年	死傷者数
平成29年	7
平成30年	7
令和元年	7

信号機のある横断歩道横断中歩行者視覚障害者死傷者数の推移

### <事例>

平成30年12月、通勤ラッシュを避けるため早朝出勤していた視覚障害者が、早朝で視覚障害者用付加装置が鳴らなかったために赤信号で横断歩道を渡ってしまったことによる死亡事故が発生

### 【課題設定】

- 第1期SIP※の研究開発成果である新たな歩行者支援システム「高度化PICS(携帯電話等を活用して信号情報提供等を行うシステム)」の整備を推進し、交差点における視覚障害者等の安全な横断を確保する。

※ 内閣府の「戦略的イノベーション創造プログラム」

## インプット

- 高度化PICSを整備する警察装備費の確保  
令和3年度予算:2,560,426千円

## アクティビティ

- 都道府県警察において、高度化PICSの整備が必要な信号交差点を特定し、当該交差点に高度化PICSの整備を実施。
- 都道府県警察において、関係機関・団体等と連携し、高度化PICSの広報や利用方法に関する説明会等を実施。
- 警察庁において、高度化PICSに対応したアプリや端末を開発・製造する企業を増やすための働きかけを実施。

+

## アウトプット

- 高度化PICSの整備基数  
令和3年度:6都府県警に1991基(参考)  
令和2年度:4県警に62基  
令和元年度:3県警に61基

## 短期アウトカム

- 高度化PICS整備基数の拡大
- 視覚障害者用付加装置が夜間鳴動しない交差点における整備率の上昇  
⇒ コロナ禍における視覚障害者の時差出勤(視覚障害者用付加装置が鳴動しない早朝、夜間時の出勤)等の安全の確保、移動の円滑化

上記により、高度化PICSの効果が実証され、都道府県警察による整備や企業による対応アプリ・端末の開発等が促進される。

## 中長期アウトカム

- 信号交差点における視覚障害者等の歩行中の交通事故件数の減少
- 高度化PICS対応アプリ等の機能拡充による利用者の利便性の向上  
(3年以内に高度化PICS対応アプリ・端末が3つ以上になることを目指す)

## インパクト

- ・道路における危険の防止
- ・安全で円滑な道路交通環境の実現
- ・バリアフリー社会の推進